

春秋会

ニュースレター

2023.11



今月の予定

- ・11月15日(水)12~13時
第8回幹事会
- ・11月15日(水)19時~
ワインの夕べ(親睦委員会)
- ・11月25日(土)
東天満の歩き方(親睦委員会)
- ・11月29日(水)
バーベキュー(若手会)

半年経ちました

幹事長 岩本朗(47期)

4月に幹事長になり、9月総会も終わって、任期の約半分が経過しました。コロナ禍の中で副会長を務め、懇親行事がほぼ絶滅して大変寂しい思いをしましたので、今年は懇親行事にはできる限り参加し、皆さんと楽しい時間を過ごさせていただいています。

幹事長の役割やあり方についてはいろいろ意見がありうと思いますが、私は会派を具体的に動かしていくことは副幹事長や委員会(委員長)に任せればよいと思っており、幹事長は、責任者として、「お礼」、「お願い」、不出来があった際の「お詫び」をきちんとできればよいと考えて日々を送っております。

「お願い」に関しては、やはり弁護士会への各種推薦について常に頭を悩ませています。人事については、私自身はできる限り計画的に行うべきだという強い思いを持っており、安易に留任をお願いするのではなく、負担を引き受けてくださっている方にできる限り合理的な期間に任期を終えていただけるよう、新任の確保にも努力をしているつもりです(結果的に自分の首を絞めている面もありますが(笑))。

激闘の日本シリーズで名采配を振るった岡田監督や中嶋監督のようにはいきませんが、人事を考え抜いて残る任期も務めていきます。

刑事弁護研修

森山ジェニー(75期)

2023年10月11日(水)、大阪弁護士会館にて、小橋り先生と藤原航先生を講師に迎え、若手弁護士3名と講師の質疑応答形式で、刑事弁護研修を行いました。研修の出席者は30名を超え、若手だけでなく色んな期の先生方が参加され、大盛況でした。

研修は対談形式、私を含む若手弁護士3名から講師に質問し、講師より回答いただく形で進めました。刑事弁護をするうえで不安であることや、被疑者・被告人とどのように接してよいか分からないといった、基本



的な質問に対して、講師のお二人からは、刑事事件という事案の性質上、脱法行為の手助けや懲戒請求を避けるための危機管理意識は常に持つ必要があるという事を前提としつつも、被疑者・被告人を一人の人として尊重することの重要性が繰り返し説明いただきました。

具体的には、被疑者・被告人との対話は対等かつ丁寧に、敬意をもって行うこと。身柄拘束一日の重みを理解して、身体拘束からの解放に向けた活動に全力を尽くすこと。最終的な方針の決定権は被疑者・被告人にあると理解したうえで、被疑者・被告人の希望する方針に対して弁護人として見通しを適切に伝えること。決定した方針に基づき、全力で弁護活動をすることの重要性などについて、講師お二人の経験にもとづいた心のこもったメッセージが送られました。



特に、講師のお二人は自らの失敗談などを惜しむことなく共有して下さったおかげで、話を聞いていた若手としては、同じ過ちをしないようにと注意をすることができました。

また、講師のお二人からは、難しい事案や質問があるときには、周囲の弁護士に積極的に質問し、共同受任を持ちかけるなどして、決して一人で抱え込まないようにすることの重要性も指摘がありました。

講師お二人の研修を経て、「刑事弁護ってなんだかこわくて不安」と思っていた若手弁護士としては、とにかくチャレンジしてみよう、困ったら周囲の弁護士にたくさん相談しよう、と刑事弁護に前向きに取り組む意欲を得ることができた、貴重な機会となりました。

懇親会も刑事弁護をめぐる話で盛り上がり、実際に会場参加することの有意義さも改めて体感することができました。

小橋るり先生、藤原航先生、貴重な時間と研修を、本当にありがとうございました。



「屋形船クルージング」のご報告

若手会世話役 河野哲平（71期）

10月31日、若手会企画の屋形船クルージングが開催されました。



秋の夜長に大川をゆったりと周遊して、水上からの街並みを眺めながら、優雅に舟遊びを楽しみましたのご報告したいところですが、、

すき焼き、松茸食べ放題のプラン付きの本企画。適度に脂の乗った和牛のすき焼きに香しい松茸が加わるという贅を極めたお食事が供されました。



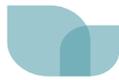
大川の流れが緩やかであったことに加えて、おそらく熟練の操船技術もあって、船上の揺れは食事をいただく上でほとんど気になりません。一同、景色はそっちのけ？で、ひたすら食に夢中。絶品のすき焼き鍋を囲んで、話も弾みます。至福の時はあっという間に過ぎていきました。

大阪城のビュースポットでの一時停船というサービスがなければ、屋形船でクルージングをしていながらほぼ景色を眺めることがないままに終わっていたかもしれません。

せめてお腹が満たされた後は、船上からの夜景をもう少し楽しんでおけばよかったと後悔しています。



万が一に備えるために事前に乗船者名簿の提出を求められ、一抹の不安も頭によぎりましたが（※数年前のとあるイベントで酔った某会員が深夜の東シナ海の波に危うくさらわれそうになったことがあったみたいです。）、一同、無事に下船しました。



ひと月一島、国内航路全制覇への旅(8)

～沖縄県：小浜島、黒島、西表島～

広瀬元太郎（60期）

今回は、筆者の偽物が現れ、瀬戸内の「青葉島」に行ったらしい。魔術師の能力が高いからだとは思いますが、これほどのもっともらしい旅行記がAIで書けてしまうのには驚愕を禁じ得ない。

10月12日、沖縄県の石垣島にやってきた。旅行ばかりして仕事は大丈夫なのかとの声もあるが、正直言って結構しんどい。遊びで過労死してしまいそうである。最近、死ぬまでに貯金を使い切るべきであるという趣旨の本を読み（Die With Zero:ダイヤモンド社）、遊びを人生の中心におこうと決意した。なぜ、このような人生観を最初に語るかということ、AIでは真似できないからである。



今回の主目的は、波照間島である。波照間島は、石垣島の南西約50キロに位置する有人島として日本最南端の島である。「有人島として」という前提条件がつくということは、これより南に無人島があることを意味するが、それは沖ノ鳥島だ。

【国土地理院地理院地図】

それは、岩礁といってもいい小さな無人島であり、半径200マイルの排他的経済水域確保のため、国家の威信をかけて保全している島であり、一般人は行けない。一般人が行ける場所は、波照間島が限界である。この島には、船しか交通機関が無い。海は荒れやすく欠航の確率が高いらしい。船便は1日3便あり、特に2便目は小さい船なので欠航しやすいとのことである。他の島にも行きたかったので、この2便目に乗るスケジュールを組んだ。2便目に乗れなければ、その日の宿泊地に到達できず代替手段は無い。この日、小笠原諸島付近に巨大な台風15号がおり、少し嫌な予感がしたものの、まあ、遠いから大丈夫であろうと思っていた。祈るように港の掲示板を見ると、「1便〇、2便×、3便〇」との掲示が出ていた。友達はみんな合格したのに、自分だけ不合格という気分である。つまり、波照間島は行けなかった。「また来てね」ということだ。また、いきます。

石垣島の近くには、波照間島を含めいくつか離島がある。波照間島もだめになったし、手当たり次第に行ってみることにする。手当たり次第に行ってみる場合の拠点は、「ユーグレナ石垣離島ターミナル」である。竹富島とかに行っ

たことのある読者は、おそらく立ち寄ったことがあると思う。具志堅用高の像がある。空港からのバスの終点でもあり、港の前にロータリーもある。港の前には、ホテルも並んでおり、次々といろいろな島（竹富島が多い）行きの船が発着する、船の駅のような存在である。離島航路には、安栄観光という会社と八重山観光フェリーという会社の2社が参入しており、それぞれの時刻表を見ながら、効率的な計画を立てるのも、鉄道っぽくてよい。

1 小浜島



小浜島は、2001年のNHKの朝ドラ「ちゅらさん」の舞台となった島らしいが、筆者はこのドラマの内容をしらない。会社員をしていたので、8時には家にいない。この島には1時間半くらい滞在した。港の前にあるレンタカー屋で飛び込みで車を1時間借りた（2500円）。レンタカー屋のおやじさんが、島の名所を5か所くらい案内してくれた。1時間では無理だろうと思ったが、なんと全部回れてしまった。短い滞在であったが、のんびりしていい島であった。ヤギがかわいかった。だんだんやっていることが、乗り鉄

（鉄道に乗るのが目的の旅行で、終着駅ですぐ引き返すもの）と似てきた。

2 黒島



黒島は、牛の島である。サンゴ礁が隆起したのっぺりとした島で、島に山はない。人口210人に対して牛は2800頭いるとのことである。人口に対して牛が何倍ということ売り物にしている場所はよくある（北海道にもある）が、牧畜が盛んな場所は広い土地が必要であるから人口が少ないところが多く、一般に牛は群れで大量に飼育するので、牛の方が10倍ということはある。ありうることだ。

この島には、3時間ほど滞在した。歩いて回るには少し広い。小浜島と違いレンタカー屋はなかった。レンタサイクル屋は何店かある。今回もついて来た妻は、自転車に乗れないことはないが、運転が未熟である。以前から思っていたのだが、公共交通機関の貧弱な離島めぐりで、「自転車に乗りにくい」と言われるのは、けっこう致命的



な問題である。この問題は、いつかは解決しないといけないと思っていたところ、黒島は幸いにも坂が無く、車も走ってないので、自転車の練習には格好の島である。

そこで、島での3時間は自転車練習会と化した。最初は悲惨だったが、2時間でだいぶ上達し、妻もまんざらではない感じだ。筆者も妻を褒めたたえるため、島のカフェに入った。なんとなく嫌な予感がしたが、カフェは島時間でなかなか飲物が出て来ず、港から遠く離れたカフェまで来てしまったため、爆速で漕がないと帰りの船に間に

合わない状況になった。そのため、全力で自転車を漕がなくてはならなくなり、初級から脱したばかりの妻にとっては、苦しい帰り道となった。「普通に乗れる人にはわからんと思うけど、めっちゃ大変だったで」とのこと、せっかく自転車と仲良くなれそうだったのに、残念だ。初心者コースである程度滑れるようになったスキー初心者を、だまして中級コースに連れて行き、スキー嫌いにさせてしまった話と似ている。

3 西表島

西表島は、小浜島や黒島と違い巨大な島である。沖縄県では、沖縄本島の次に大きい。島は、熱帯のジャングルに覆われており、大半が未開の地である。島を一周する道路も無い。島の南岸には、波照間島から強制疎開させられた人々が、マラリア（熱帯に多い蚊が媒介する伝染病）に罹患して大量に亡くなったことの慰霊碑が立っている。昔といっても昭和時代にマラリアで人が死んでいたのかとびっくりする。はるか遠くに波照間島の島影が望まれる。必ず行きます。

この島には、船マニアとしては行かなければならない特筆すべき集落がある。島の西端に陸路ではいけない集落がある。石垣島からの船は、島の東端の大原という港に着く。ここから、西に向かって60キロ走った所に白浜という港がある。さらに、その先に船浮という集落があるが、この集落は西表島にあり地図上は白浜と陸続きなのだが、道路がないので船でしか到達できない。海岸線が入り組んでいるうえに、密林であるため道路が無いのだ。遠いが、がんばって、行ってみることにする。途中、「子午線モニュメント」という、東経123°45'6.789"の経度の地点を示す碑が立っている。地理オタクの筆者としては興味深い、多くの人にはどうでもいい。60進数の秒に10進数の小数点以下の数値を混ぜて連続数にするのもどうなのかと思うが、これも多くの人にとってはどうでもいい。

船浮への船は一日4便、所要時間は10分である。沖縄の果ての石垣島から1時間高速船に乗って、そのあと1時間半車に乗った先にある世界の果てのような渡船であるが、意外にも石垣に来てから6回乗ったどの船よりもきれいだった。船浮は、小さな集落であったが、日露戦争の東郷平八郎が視察に来た記念碑があった、国防上重要な場所だったのか。また、イリオモテヤマネコ発見地でもある。イリオモテヤマネコを最初に発見したのは1965年とのことであるが、えらく最近すぎないか。おそらく、もっと昔からうろろしていたが、それまでは単なる猫としか認識されてなかったのだろう。



集落を越えてさらに西に進むと「イダの浜」という美しい南国の浜があり、そこで道は終わっている。ある意味この場所が、大阪から一番遠い所である（さらに西に与那国島があるが、そこは石垣島から飛行機で30分、空港から島の西端までは車で10分くらいなので、時間的には早く着く）。きわめて感慨深い場所であるが、帰りの船は2時間後なので暇である。泳ぐには少し寒い。この浜には、そこそこにヤドカリが歩いている。第3回島めぐりの「魚島」では、砂浜に字を書いて暇をつぶしたが、今回は、砂浜に石で囲いを作り、そこに捕獲したヤドカリを集めて、ヤドカリ牧場を作って暇をつぶすことにした。一時は、10匹以上を牧場に集めたが、少し目を離すと逃げてしまった。



この果ての砂浜まで到達する人々は個性的な者が多く、ひたすら自分たちの泳ぐ姿を自撮りしているカップルや、60分以上空を見続けている若者もいる。ヤドカリ牧場を作っている初老の夫婦も十分個性的である。

ここから台湾まであと150キロ、このすてきな場所が、台湾有事に巻き込まれないことを心から望む。

ニュースレターの原稿大募集します

広報委員会といたしましては、このニュースレターを双方向的なものにしたいと思っており、皆様の原稿を大募集します。ぜひ、投稿ください。

- 1 今までのニュースレター・会報の記事に対するご意見
- 2 子育て体験談
- 3 変わった国に行った旅行記
- 4 ペットや趣味の紹介
- 5 感動した本、マンガ、ゲームの紹介

下記にお送りいただければ、ニュースレターに掲載させていただきます（もちろん、一定の審査はさせていただきますが…）

広報委員会委員長 松尾洋輔 y-matsuo@dojima.gr.jp